

New York University (NYU)

ニューヨーク大学

・大学の概要

ニューヨーク大学 (NYU) は 14 のスクール (School) で構成されており、うち 7 つが学部にあてられている。2500 以上の学科 (学部) があり、160 プログラムが提供されている。

- 設立年 1831 (昭和 6) 年 4 月 18 日
- 場所・住所 アメリカ合衆国ニューヨーク州ニューヨーク市
- 形態 私立大学
- 学科構成

学部 (7 学科)

- College of Arts and Science 人文社会学部
- Tisch School of the Arts メディア・芸能学部
- The Stern School of Business ビジネス学部
- The Steinhardt School of Education 学校教育学部
- Gallatin School of Individualized Study 個別研究
- The School of Social Work 社会福祉学部
- The School of Continuing and Professional Studies 専門性養成学部

大学院 (7 研究科)

- College of Dentistry 医学研究科歯学部
- Graduate School of Arts Science 人文社会研究科
- The Steinhardt School of Education 教育学研究科
- Leonard N. Stern School of Business ビジネス研究科
- Professional Studies 専門職研究
- Public Service 公共福祉
- Social Work 社会福祉

- Gallatin School of Individualized Study 個人研究

他に、リターニング学生（卒業後にまた勉強しに戻ってくる学生）も受け入れている。

海外キャンパス

- イギリス（ロンドン）、フランス（パリ）、スペイン（マドリード）、ドイツ（ベルリン）、ガーナ（アカラ）、ハンガリー（プラハ）、イタリア（フィレンチェ）

■ 学年歴

二学期制（一学期は3ヶ月半 = 15週）

■ 学費

一年に \$ 30,000 前後。

. 全体 / 聴覚障害学生の全学年在籍数

■ 全体の学生総数

学生数（2004年度秋学期）		
科目履修生も含めた学生総数	39,408	
学士などの正規入学者		
	数	%
学部	20,212	51.30%
大学院（修士課程，博士課程，専修免許）	15,884	40.30%
職業教育（歯科医師，法律・哲学，薬学）	3,312	8.40%
合計	39,408	100.00%

■ 障害学生数

- 障害学生全体: 755 名
- 聴覚障害学生 12 名（ろう 6 名、難聴 6 名）

社会福祉学科に4人在籍しており、他の学生は一般教養などの学科に在籍して

いる。

国際学を専攻する学生 1 人が必修科目を履修するため、一学期だけパリに留学したそうである。パリへの留学生には、パリの手話通訳者をつける。ADA などの障害者の権利を保障する法律はもちろん国外には効力がなく、国外での学生のサポートは受け入れ先の大学と相談して進めることになる。

ビジネス専攻にも聴覚障害学生が在籍している。うち 1 人はイタリアから留学してきており、美術館の経営について学んでいる。その学生は学士を取得することが目的ではなく資格を取得することが目的で留学してきている。

■ 卒業率

1998 年に入学した学生で、学部を卒業して学士を取り、大学院まで進んだ学生（6 年間在籍）の卒業率は NYU 全体で、80.0%。

聴覚障害学生は、これまでに 1 人だけ卒業できない学生がいたが、その学生を除き、全ての学生がスムーズに卒業している。

. NYU の学生への学内施設

■ 寄宿舍

- 年間 700~10000 \$ の出費。私立大学なので州からの援助はなし。

■ 図書館

地上階 12 階、地下階 2 階。大学図書館は 3 つあり、学部生対象の図書館、大学院生対象の図書館、その他の図書館がある。CD45,000 枚、ビデオ 18,000 本を所蔵。

最上階に学長のオフィスがあり、時々下に降りてきては学生と歓談されている。

- サービス
 - ノート PC 貸し出しサービス
 - 年中無休で学生にのみ開放
 - ニューヨーク市の他大学とネットワークを通じて連携しており、借りたい本が図書館にない場合は、ネットワークを通じて他大学から借りることが可能
- 障害学生へのサービス

- 盲人学生に対しては代読サービスを提供
- 点字本はおそらく所蔵していない模様
- ほとんどの CD には字幕がつくが、字幕付きのビデオは全体の約 50%である。字幕無しビデオを教材として使用する際には、通訳をつけて設置する。また字幕つけに関しては、会社に依頼している

■ キモセンター（生活支援センター）

- 劇場をかねた講堂
- 学生用ラウンジ（2F）
- ダイニングルーム（3F）

学生オリエンテーションは主にここで行われる。学生の講義シラバスやカリキュラムなどのリソースは学部ごとに設置されており、センターにいけばリソースの場所を教えてくれる。リソースとは、学生生活を送る上での生活情報のことである。リソースは学部毎に提供されているが、まずここを訪れると短時間で、学部のどんな部門が担当なのかという的確な情報を得ることが出来る。

■ 課外活動

280 種類のクラブがある。自分自身で設立ができる。さかんなのはフェッシング、女子バスケットボール。聴覚障害学生の団体が以前はあったが、現在は解散した。

・ 障害学生支援

■ 障害学生支援センター（CSD : Center of Student with Disability）

■ 設立年： 1978 年。

障害学生支援センターが設立されてからも、聴覚障害学生の入学者数にとくに影響はなく、入学者数は年々でまちまちである。

■ スタッフ

障害学生には、LD や身体的障害、精神障害も含まれる。コーディネートを担当するスタッフは 5 人おり、うち 2 人が聴覚障害関係のコーディネートを担当している。担当であるディナー氏はコーディネートを担当しており、またバードン氏はろう学生

に対するサービスを担当している。2人とも通訳士の資格を所有しており、業務の他に通訳も兼ねている。

■ ガイドブック

The Henry and Lucy Moses Center for Students with Disabilities

ハンドブックをそれぞれの障害ごとに作成し、ウェブから閲覧できるようにしている。

■ 情報保障手段

● ノートテイク

アメリカでいうノートテイクは、手話通訳をつけたときの補助的な役割を果たす。すなわち、日本のように授業内容を要約して書き留めるのではない。手話通訳を見ることがとノートに授業内容を書くことは同時にはできないからである。

カーボン紙は渡すがペンはノートテイク自身を用意する。もしくは、コピーカードを渡しておき、ノートテイクした紙をコピーして渡すという方法も行われている。

謝礼の関係から、ノートテイクを利用できる時間には限度がある。ノートテイクの謝礼として支出できる費用の金額を学生に伝え、学生がその金額内でやりくりする。ノートテイクは、ポスターや口コミで呼びかけて募集している。

● 手話通訳

99.9%の派遣率。27人が登録されており、27人/週の派遣がある。

通訳の派遣については、フリーランスで契約を結ぶのと、手話通訳者が登録されている団体に派遣を依頼する。ニューヨーク市には手話通訳者が多く、彼らの技術を見て、直接依頼して契約を結んでいる。

最終的に、手話通訳者はろう学生が選ぶことになっている。情報保障を受ける学生の不満は、特に通訳スキルに関する不満が多い。

● C-Print

C-Printは最近出てきた技術であり、ソフトの使い方などに習熟しなければならぬため、人材の養成が急務である。実際には、C-PrintとCARTを両方使うこともある。

● CART (Communication Access Realtime Translation)

CART サービスは 38 時間 / 週の提供 (ろう学生からの要望の 90% ぐらいは派遣可能)。CART のタイプライターは 7 人。CART の入力者は昔からおり、ベテランの入力者を集めやすい。

CART は特殊なキーボードを使用して、講義の発言内容を正確に逐次記録するシステムである。また国会や裁判所の速記者が入力にあたることが多い。タイプライターは教室内に持ち込まれて入力が行われる。基本的に機器 (ディスプレイとキーボード) を入力者が用意するだけでよい。データは CD などにて保存され、電子データで受け取ることが出来る。

最近は、CART 利用の要望が増えてきているので、CART の入力者を増員することが当面の課題である。

■ 問題点

● 学生のモラル

例えば、学生の要望に合わせた情報保障手段を用意したが、直前になって他の情報保障手段がいいと言ってくる学生がいる。このような場合、緊急で調整するが、時間的に不可能な場合が多く、情報保障を利用する学生側のモラルと理解が求められる。

● 知的財産権

CART がつけられた講義には、講義で話された音声情報が文字となって残る。知的財産権の観点から、自分の講義内容が逐次記録され、無償で聴覚障害学生に提供されることに抵抗を感じる教官もいる。また CART のデータを欲しいと希望する教官もいて、理解を求めるのが大変だということであった。知的財産権についての考え方は大学によって異なり、RIT は教官自身も授業の記録に利用できるようになっている。

■ 謝金

ノートテイクへの謝礼はセンターが負担している。また手話通訳、C-Print、CART への謝礼はその学生が在籍する学部の負担によって支払われている。手話通訳者への謝礼はセンターを經由して、その聴覚障害学生が在籍する学部 (大学) から支払われている。

- 企業からの寄付

大学で学ぶ聴覚障害学生に理解があり、資金援助をしてくれそうな見込みのある企業のリストを聴覚障害学生に教える。聴覚障害学生本人が企業のリストから選び、直接礼状やメールで依頼させる。依頼する企業の数、依頼をする、しないは本人に一任されている。

州からの援助と企業からの寄付が、ノートテイクの実費にあてられることになっているが、州からの援助だけでは資金的に苦しいので、このような方法をとっている。企業からの寄付がノートテイクの実費に活用されるが、残った場合は学生の学費に回される。すなわち、奨学金とも言える。

企業からの資金は一年ごとにまとめて支給される。年度末に聴覚障害学生が、資金援助をしてくれた企業へ一年間の学業報告をかねた手紙を書き、合わせて新たに申請を行う。その申請を受けて、企業が引き続き寄付するという形である。寄付金額と年数は決まっておらず、時には寄付が中止されることもある。

センターは、聴覚障害学生に企業から支給された資金総額を伝え、実際の資金管理はセンターが行っている。実際に謝礼が支払われるのはセンターからであり、学生が直接謝礼を渡すことはない。

- デフネス・リハビリテーション・プログラム (Deafness Rehabilitation Program)

以前は、教育学研究科 (The Steinhardt School of Education) の「カウンセリング & 学生サービス」コース内に、デフネス・リハビリテーションプログラムが以前は設立されていたが、2年前の2003年に廃止された。このコースが廃止された理由はおそらく大学上層部の政治的な理由によるもので、資金援助が減ったからではないかということであった。

以前には、このコースに盲ろうの日本人 (福島智さん ?) がここに留学されていたらしい。

・ NETAC との関わり

他大学が、初めて聴覚障害学生への支援に取り組む場合には、NETAC が情報提供などの援助を行うことがあるが、NYU は、過去約 30 年間にわたる障害学生支援の実績があり、これまでの実績に基づいて情報などを NETAC に提供することもある。

TIP シートは NETAC 設立以前から NYU オリジナルのものを独自で作成しているため、NETAC 作成のものは使用していないが、内容的には NETAC の T I P シートと似通ったものになっていると思う。

■ NETAC からの援助 0329

- C-Print の人材養成の費用
- NETAC からの資源・資金提供
- PEP-Net Conference への参加費用

C-Print の人材についてはオンライントレーニングでの養成を検討中であり、衛星通信（SCS）会議で各地と通信し、情報や意見交換を進めている。